

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	渋谷ファッション&アート専門学校
設置者名	学校法人田中千代学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾専門課程	ファッション総合科	夜・通信	3,435 時間	80×2=160 時間	
文化専門課程	美術表現科	夜・通信	1,020 時間	80×1=80 時間	
	造形表現科	夜・通信	1,020 時間	80×1=80 時間	
	表現研究科	夜・通信	1,020 時間	80×1=80 時間	
(備考) 今年度からファッション総合科のコースがなくなった					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	渋谷ファッション&アート専門学校
設置者名	学校法人田中千代学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学修支援企業 社外取締役	2023.6.1～ 2025.5.31	学科編成・教育内容 等の専門的な知見
非常勤	小売業 顧問	2023.6.1～ 2025.5.31	労務・財務・法務等 の専門的な知見
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	渋谷ファッション&アート専門学校
設置者名	学校法人田中千代学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【作成について】 授業科目、カリキュラム編成については、学内会議であるカリキュラム編成委員会において立案する。 服飾専門課程、文化専門課程共にカリキュラム編成委員会に属する各課程分科会において、現行授業科目の検証、改善などの審議を行い、次年度の各課程全体の授業計画、カリキュラム編成の素案を作成する。これをもとに、カリキュラム編成委員会では全体を審議、調整して立案し、学園運営会議の決済を経て実施する。 各授業を担当する教員は、決済を得た授業計画、カリキュラム編成に基づき授業方法及び統一フォーマットで定められた事項を記載したシラバスを作成する。</p> <p>【時期について】 翌年度の授業計画は、11月～1月に担当教員が作成し、3月の理事会時の議案で事業計画が承認されることで正式決定する。決定後、各課程、各科毎に冊子を作成し、学内配布とともに一般閲覧に供する。</p>	
授業計画書の公表方法	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目においては、シラバス記載の「成績評価の方法」に基づき、学習成果を評価する。評価結果は各課程における校長主宰の進級、卒業、修了判定会議において協議、認定をしている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本校の内規において、評価基準及びGPAの計算式を設定している。

合否区分	評価	評点	グレードポイント
合格	A	100～80点	3
	B	79～70点	2
	C	69～60点	1
不合格	D	59点以下	0

*GPAの計算式

$(A \text{ の修得単位数} \times 3 + B \text{ の修得単位数} \times 2 + C \text{ の修得単位数} \times 1) \div$
 $\text{総履修登録単位数 (D の単位数を含む)}$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

HPにて公表している

掲載 <https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

衣服文化、美術文化の理論、技術などを専門的、体系的に授け、職業に就き得ると同時に一般社会生活に寄与し、知識及び技術を通じて人間性の向上を図ることを目的としている。各課程、学科が定める所定の全授業科目の修了をもって、本校が目的とする人材であると認定する。

卒業要件は、各課程、学科が定める所定の全授業科目を年次に全て合格することであり、入学時のオリエンテーションでキャンパスガイドを用いて学生に周知している。卒業認定は、3月の校長主宰の進級、卒業、修了判定会議において行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

HPにて公表している

(掲載 <https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/>)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	渋谷ファッション&アート専門学校
設置者名	学校法人田中千代学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)
収支計算書又は損益計算書	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)
財産目録	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)
事業報告書	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)
監事による監査報告（書）	HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政関係		服飾専門課程	ファッション総合科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,190 単位時間/単位	30 単位時間 /単位	150 単位時間 /単位	3,555 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		28人	1人	4人	11人	15人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3の1の記載内容を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3の3記載内容を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3の4記載内容を参照
学修支援等
（概要） 担任制として、担任教員が出席状況、課題提出状況などを把握し、学生とのコミュニケーションを細かく取るようにしている。学校独自の奨学金制度を設け、経済的な面でも学びやすい環境を整えている。学外活動も可能な範囲で行い、資格取得に関しては対策講座の開設等、指導体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13人 (100%)	0人 (0%)	8人 (61.5%)	5人 (38.5%)
（主な就職、業界等） アパレル企業の販売、スタイリスト等			
（就職指導内容） 学生、担任、就職担当者の3者面談の実施。就職活動に必須なポートフォリオ作成のための授業時間数の拡大。企業関係者、卒業生によるセミナーの開催。ビジネスマナーの授業やインターシップ研修の実施。			

(主な学修成果(資格・検定等)) パターンメイキング技術検定、ファッションビジネス能力検定、 ファッション色彩能力検定、パーソナルカラー検定 (備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	3人	16.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、出席不良等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談など生徒とのコミュニケーションの機会を増やし、学生の孤立を防ぐ。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化専門課程	美術表現科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,020 単位時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	1,020 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	40人	38人	6人	32人	38人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3の1の記載内容を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3の3記載内容を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3の4記載内容を参照
学修支援等
（概要） 放課後や長期休業期間に教室開放時間を設け、制作の時間と場所を提供している。 校内のギャラリーを使用しての外部への作品発表等を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28人 (100%)	13人 (46.4%)	0人 (0%)	15人 (53.6%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29人	1人	3.4%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談など生徒とのコミュニケーションの機会を増やすことで各生徒の状況を把握し、生徒に応じた指導を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化専門課程	造形表現科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,020 単位時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	1,020 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		40人	38人	6人	32人	38人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3の1の記載内容を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3の3記載内容を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3の4記載内容を参照
学修支援等
（概要） 放課後や長期休業期間に教室開放時間を設け、制作の時間と場所を提供している。 校内のギャラリーを使用しての外部への作品発表等を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
24人 (100%)	6人 (25%)	2人 (8.3%)	16人 (66.7%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談など生徒とのコミュニケーションの機会を増やすことで各生徒の状況を把握し、生徒に応じた指導を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化専門課程	表現研究科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,020 単位時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	1.020 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	40人	21人	6人	32人	38人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3の1の記載内容を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3の3記載内容を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3の4記載内容を参照
学修支援等
（概要） 放課後や長期休業期間に教室開放時間を設け、制作の時間と場所を提供している。 校内のギャラリーを使用しての外部への作品発表等を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
37人 (100%)	8人 (21.6%)	0人 (0%)	29人 (78.4%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39人	2人	5.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更、介護		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談など生徒とのコミュニケーションの機会を増やすことで各生徒の状況を把握し、生徒に応じた指導を実施している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ファッション総合科	170,000 円	600,000 円	290,000 円	
美術表現科	90,000 円	390,000 円	270,000 円	
造形表現科	90,000 円	390,000 円	270,000 円	
表現研究科	90,000 円	390,000 円	270,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者として関係企業、大学、卒業生などを含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育内容・学校運営等について評価を行っている。 評価内容は理事会、学校運営委員会等で報告され、次年度以降の改善に取り組んでいる。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
デザイン研究所監事	令和4年12月1日～ 令和7年11月30日	企業
元大学教授	令和4年12月1日～ 令和7年11月30日	大学
アパレル企業	令和4年12月1日～ 令和7年11月30日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HPにて公表している (掲載 https://www.shibuya-and.tokyo/outline/disclosure/)		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 掲載 https://www.shibuya-and.tokyo

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113311300103
学校名 (〇〇大学 等)	渋谷ファッション&アート専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人田中千代学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		-	-	-
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				-
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)		0人	0人
GPA等が下位4分の1		0人	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。